

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870200159		
法人名	株式会社かくだ		
事業所名	敦賀ケアセンターかくだ「はるか」		
所在地	福井県敦賀市昭和町2丁目20番地16号		
自己評価作成日	平成23年5月15日	評価結果市町村受理日	平成23年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1870200159&amp;SCD=320&amp;PCD=18">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1870200159&amp;SCD=320&amp;PCD=18</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年6月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホームは2階にあり見晴らしが良く、桜・つつじ等が見え季節を感じる事ができる。食事は好みを反映し、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくして提供している。また、「くもん学習療法」を実施し、脳の活性化を図り、介護予防に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは、年数を重ね利用者の重度化が進んでくる中でも、安らぎやゆとりを持ってその人らしく居心地良く暮らせるよう取り組んでいます。個々の職員は努力目標とする毎月のマニフェストを作成し、利用者を中心に家庭的な生活が送れるようなケアの実践に努めています。また、管理者がマニフェストの評価をしたり、職員のやる気を積極的に取り入れ、職員の思いが実践でき結果が得られることで、職員のやりがいにつながっています。職員は日々の利用者との関わりや家族からの情報などから利用者本位の生活が送れるように検討し、意見や提案を出し合いながら取り組み、利用者はより明るい表情が見られ和やかに過ごされています。又、掃除が行き届き整理整頓されているリビングや居室は、清潔が保たれています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度の全体ミーティング及びグループホームのミーティング時に唱和を行い、周知している。職員はホームの介護目標を基に個人の研修目標を定め、それを毎月管理者が評価し理念の実践に向けて取り組んでいる。	事業所では法人の運営理念をもとに作られた、毎年度の介護目標があります。昨年度を振り返り職員間で評価し、出来なかった事をまとめて目標として作成しています。また、法人理念は全体のミーティングやホームのミーティングで唱和し確認しあっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の新年会や夏祭りに参加したり、施設行事では、年に2回開催する餅つき大会や夏祭りには地域の方々に参加して頂き、交流を図っている。	地域の夏祭り等の行事に参加したり、地元の商店への買い物、地域の方に出会った時には挨拶を交すなどの交流をしています。法人全体で開催される行事には地域に声をかけ参加してもらったり、併設のデイサービス行事に小学生の来訪があった時には利用者も参加しています。今後、認知症キャラバンメイトとして地域に発信することで、更に理解が深まるようにしていきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入り口には運営理念を掲示し、来客、家族、職員が常に目に付くようにしている。運営推進会議等で周知し、理解を得ることができるよう、説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催時に、状況報告書を作成し、利用状況の周知に努めている。各委員から活発な意見がでるようになり、その意見をサービスの向上に役立てている。	運営推進会議は区長や民生委員、福祉委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催しています。ホームからの報告を行い参加者からはホームに対しての要望や助言があります。家族の来訪時には開催日を伝えていますが、参加には至っていません。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者に関する情報を共有している。敦賀市主催の「脳の健康教室」で介護予防の協力を行っている。	市役所には、書類申請や運営推進会議録を直接持参し、何かあれば相談できる関係があります。又、敦賀市からの委託により、介護予防の一環としての協力や情報提供を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に取り組んでいる。身体的状況にてやむを得ない場合は、事前に家族に同意書ももらっている。	毎年身体拘束についての勉強会に参加した職員が講師になり伝達研修を行い、理解を深めています。ホームは2階にありますが、玄関は夜間以外は解放されており、エレベーターは自由に使う事が出来ます。1階のデイサービスや居宅介護支援事業所の職員同士の連携や協力を得て、自由な行動が妨げられないよう支援を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設での事件等を周知し、検討、確認を行うことで、虐待についての意識を高めている。職員に対して研修会を行い、虐待防止の徹底に取り組んでいる。		

敦賀ケアセンターかくだ「はるか」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料により、制度についての勉強会を行っている。今のところ利用者に必要性を感じていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、疑問点に関してはいつでも受け入れ、誠意をもって対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価を受け、公表している。家族が面会に来た際には話す機会を設け、意見を運営に反映できるよう取り組んでいる。	夏祭りや餅つきなどの行事を兼ねた家族会や、月に1回は家族の面会があり、その都度意見や要望がないか問いかけています。気軽に意見を言えるように心がけています。意見や要望は少なく、今後さらに意見の言いやすい環境を作っていきたいと考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のグループホームミーティングや研修会で、職員全員が意見を発表できる機会を設けている。	毎月のミーティングは、職員は必ず発言が出来るように配慮しながら開催しています。出された意見に対しては、提案した職員の思いを聞きながら皆で考え、実践に向けて取り組んでいます。又、職員は年間の支援目標を定め、実践の状況を毎月管理者と共に確認しており、利用者へのサービスの向上に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等を行い、各職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度のグループホームミーティング後、介護技術・認知症に関する研修会を行い、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会等に参加し、意見交換を行い、ネットワーク作りに取り組んでいる。		

敦賀ケアセンターかくだ「はるか」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は介護目標に「馴染みの関係作り」を第一に挙げ、介護にあっている。観察した事や聴いた事に関しては、SOAPでの記録を行い、ケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホーム入所時に十分な意見交換を行い、お互いに納得できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にカンファレンスを行い、家族の意向・本人の意向を取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の介護度・認知症が高く「支えあう関係」を築きにくい現状ではあるが、側にいてお互いが安心と思う関係はできている。余裕を持ち、ゆったりした時間を共に過ごせるよう心がけている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所が多く、話をする機会も多い。一緒に行事にも参加してもらい、良い関係を築くことができるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事予定の中に個別訪問を取り入れ、本人の希望や自宅等へ行く事で、少しでも維持できるように援助している。	家族から利用者の生活歴などの情報を得て、利用者の行きたいところや食べたいものを聞きながら、個別の外出として年間行事に組み込んでいます。担当職員と一緒に神社や喫茶店、花見等に出かけるなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来るだけホールで過ごし、利用者同士と一緒に過ごす時間を設けている。利用者の介護度が高い為、職員が間に入り利用者同士が関われるよう努めている。		

敦賀ケアセンターかくだ「はるか」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話での相談を受けたり、ホームに遊びに来てもらったり等の交流が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向を話せる人が少ない為、家族の協力により情報を収集し、本人の考えに近づける援助を行っている。	入居前には、家族にセンター方式のアセスメントの一部を渡し生活歴や好み等の解る部分を記入してもらっています。今までのケアマネージャーや家族の参加のもと担当者会議を開催し、希望や意向を本人本位に検討しています。入居後は、家族からの情報をもとに利用者の表情や変化を見逃さず思いを把握できるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集は家族等の協力を得ており、少しでも多くの情報を得る努力をしている。日々の関わりの中でも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者を観察し、気付きを大切にしながら把握するように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一回のケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。ミーティングや申し送り時間帯に話し合い、介護計画に反映するようにしている。	センター方式のアセスメントや担当者会議で話し合った結果をもとにケアプランを作成しています。状況に変化があった時や3カ月毎の定期的、家族の参加のもとカンファレンスを開催し、全職員の意見を取り入れ評価し見直しに繋げています。又、医師や看護師からの意見は必要時ケアプランに取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAPの記録の充実を図り、問題点を明らかにすることができている。それを評価し、計画の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社全体が介護に対し多方面のサービスを行っている。アドバイス、意見交換・急変時の対応等強力体制がある。		

敦賀ケアセンターかくだ「はるか」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力を得ることができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度のかかりつけ医による往診を行う体制ができている。緊急時の協力も得られている。	入居時にホームの協力医の往診が毎月あり24時間連携が取れることなど説明し、納得した上で変更されています。往診時には書面でホームからの様子を伝え、医師からも指示をもらっています。同じ階には訪問看護の事務所があり、いつでも相談が出来るなどの医療体制があります。また、併設されているデイサービスの職員に歯科衛生士がいる事で相談が出来、口腔ケアについて学び実践しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で訪問看護と連携がある。主治医との連携体制も、訪問看護の協力によりスムーズに行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直後に状況報告書を提出したり、入院中に面会に行き状態の把握を行い、スムーズに退院に結びつけることができるように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りの経験があり、家族と話し合い、主治医の協力を得ながら職員と情報を共有し対応している。	入居時には、ホームの終末期の対応の方針を説明しています。状況に応じて医師や家族と話し合い、往診時には家族に立ち会ってもらっています。又、訪問看護が併設されている事でいつでも相談し支援できる体制にあります。今後訪問看護の協力を得ながら看取りのケアについての研修をしていく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の研修を行い、緊急時には管理者、看護師の指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で相談・協力要請を行ったり、避難訓練を実施して災害時の対策を検討している。	併設のデイサービスと合同で年に1回、役割を決めて避難訓練を行っています。ホーム独自でも誘導の仕方等を中心に訓練をしています。又、運営推進会議で議題にしながら、地域への協力を呼び掛けています。	

敦賀ケアセンターかくだ「はるか」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の管理については徹底できている。プライバシーの保護についての研修を行い周知している。	人生の先輩としての対応や敬語での会話が出来るように取り組んでいます。排泄時などでは大きな声での呼び掛け、利用者の後ろからの声かけなどはしないように注意し合っています。不適切な対応等が見られた時には、その都度注意しています。プライバシーや人権の尊重などについての研修を受講しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全てに関し、利用者に声を掛け、自己決定を求める支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた関わりを行っている。その人らしさを知る為に、家族から情報を収集しケアに繋げる努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護度の重度化により、理髪士の訪問サービスも行っている。カットは利用者に合わせて、その人らしい髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や茶わん拭きを手伝ってもらっている。夕食は何人かの利用者と一緒に作っている。	朝昼の食事は1階の厨房で、新鮮な魚や豆類など利用者の好きな食事が作られています。夕食は利用者の希望や食べたいものを聞きながら、担当職員と共にホームの台所で作り、配膳や食器拭き等を利用者と一緒に行っています。おやつ作りや弁当を注文したり鍋料理、個別で食べに出かける等の楽しみも作っています。職員もテーブルに着き会話をしながら楽しい時間になるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分及び食事の摂取量を毎日個人ファイルに記入し、不足している場合は声かけ等の工夫を行っている。昼食時には手作りヨーグルトを提供し、バランスの良い食事を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。不十分な時には職員が手直しを行い、口腔内で気になることがあれば、歯科衛生士に相談し指導を受けている。		

敦賀ケアセンターかくだ「はるか」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを毎日チェック、状況を把握し、個別対応ができるように努力している。	日中はおむつを使用しない生活が送れるように取り組んでいます。車椅子の利用者も個々のタイミングで時間を見たり、表情や様子で声かけをし、トイレでの排泄に努めています。トイレ誘導する中で、移動や立ち上がり筋力の低下を防ぎ、清潔保持が出来るようになったり、おむつの使用が少なくなった利用者がいます。。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日昼食にヨーグルトを出している。水分摂取量のチェックを行い、水分や食事内容を調整する等の介助を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月・水・金の週3回の入浴を行い、出来るだけ本人の意向に沿えるように努力している。	毎日の入浴も可能な状況にありますが、重度化が進んできており、希望が言える方が少なくなっています。入浴の日を決め利用者の状態や意向に応じて入ってもらよう支援しています。又、入浴剤を入れて湯の色を楽しむ方もいます。今は週3回をめぐりに午後から16時位まで入れるように準備しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に応じて、睡眠・休息できるように努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに入れ、注意事項を日報及び連絡ノートにて職員に周知している。解らない時には、看護師や薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の体調やその場の雰囲気やよみながら、出来るだけ活動してもらえよう場を提供できるように努力している。散歩やドライブで気分転換を図ってもらえよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、出来るだけ散歩やドライブを楽しんでもらっている。積極的に外へ出て季節を感じてもらえよう努力している。	車椅子を利用している利用者も一緒に散歩や買い物、ドライブ等に出かけています。1階のデイサービスの行事に参加したり、居宅介護支援事業所にいるケアマネジャーと話に行くなど、ホーム内だけで過ごさず少しでも希望に沿って外出する機会を作っています。	



敦賀ケアセンターかくだ「はるか」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いにより、所持するかを決めている。所持している人については、職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に合わせ援助を行い、家族宛ての年賀状や手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭いのない清潔な空間を保持し、季節に合わせた飾り付けを、利用者と共にしている。向かいにある結婚式場では、時々新郎新婦の記念撮影が行われており、利用者と一緒に見れる華やかなひとときがある。	広く明るいリビングは何処に居ても気持ち良く過ごせるように、掃除が行き届いており清潔感があります。大きな窓からは街路樹が見え、山や木々から季節が感じられます。又、季節の花を活け、行事で楽しかった様子の写真、切り絵や折り紙がさりげなく飾られ落ち着いた空間になるよう工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が落ちつけるよう、居室で過ごせる時間も大切にできるよう努力している。ホールでは気の合った利用者同士で過ごせるように、座席等工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳部屋も用意しており、家庭的な雰囲気の中で生活してもらえるように努力している。掲示板には写真や塗り絵等を飾り、安心できる空間を心がけている。	ベッドやタンス、寝具一式等をホームから用意しています。入居時には、今まで使っていたものや馴染みの物を持ってきてもらうように伝えていきます。テレビやタンス、冷蔵庫、ソファ等を持ち込み好きな相撲のカレンダーや職員が書いた利用者の似顔絵、ぬいぐるみ等を飾り、その人らしい居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に気を配ったバリアフリーの設計になっている。廊下には手摺りを設置し、歩行練習も行っている。		